

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F102310100603	設置等組織名	ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
大学名	青森大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	青森県	事業計画名	青森大学地域課題解決型情報インテークス強化事業

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	①令和5年7月：両フォルテ種などDXを活用した共同研究に関する事前協議の実施 ②令和5年9月：両東京堂様等とむつ市の理系人材を育成するための事前協議の実施 ③令和5年10月：東京都江戸川区役所様等と江戸川区を中心としたDX推進関連協働事業などの事前協議 ④令和6年4月～令和7年3月：情報館（仮）の改修および新設等に関する学内検討、見直しを合わせ ⑤令和6年10月～令和7年3月：高校生への特定成長分野に関する受容性調査（調査報告書作成含む）	①令和5年9月：両フォルテ種などDXを活用した共同研究に関する事前協議の実施 ②令和5年10月：両東京堂様、むつ商工会議所等とむつ市の理系人材を育成するための事前協議の実施 ③令和5年11月：東京都江戸川区役所様等と江戸川区を中心としたDX推進関連協働事業などの事前協議 ④令和6年4月～令和7年3月：情報館（仮）の改修および新設等に関する学内検討、見直しを合わせ ⑤令和6年10月～令和7年3月：高校生への特定成長分野に関する受容性調査（調査報告書作成含む）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2 後期し	フェーズ2の前期しは予定していない。	フェーズ2の前期しは予定していない。	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
認可申請又は届出	令和7年6月：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 入学定員20名定員増認可申請および関連届出	令和7年6月：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 入学定員20名定員増認可申請および関連届出		
フェーズ1 後期し	フェーズ1の後期しは予定していない。	フェーズ1の後期しは予定していない。	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2	①令和6年10月：文部科学省へ定員増（入学定員：20名増）に関する事務相談等 ②令和7年4月～令和8年3月：青森キャンパス内へ特定成長分野の人材育成に特化した情報館（仮）の改修および新設 ③令和7年4月～令和8年3月：その他、各キャンパス内関連施設・機材等の見直し、増設等 ④令和7年6月：文部科学省へ定員増（入学定員：20名増）に関する認可申請および関連届出	①-1 令和6年10月：文部科学省へ定員増（入学定員：20名増）に関する事務相談等 ①-2 令和6年11月：文部科学省へ定員増申請に関連する事前相談申請を行った。（ソフトウェア情報学部の「工学関係」の学位確認申請） ①-3 令和6年12月：文部科学省へソフトウェア情報学部定員増申請に関連する届出を行った。（特定地域内学部収容定員増加届出）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
開設又は定員増	令和8年4月：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科定員増予定（入学定員90名、工学関係）	令和8年4月：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科定員増（入学定員90名、工学関係）		
フェーズ2 後期し	フェーズ2の後期しは予定していない。	フェーズ2の後期しは予定していない。	○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	①令和9年10月：学生の内定先企業等への満足度調査の実施 ②令和10年9月：入学生への満足度調査の実施 ③令和10年10月：産業界含む学外へ本学の特定成長分野の人材育成の取り組み等に関する調査の実施 ④令和11年1月：連携高校等へ本学の特定成長分野の人材育成の取り組み等に関する調査の実施		R9年度自己評価	リストから選択してください。
			R10年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止			R11年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	青森大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック

②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック

④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑥

特定成長分野に係る学部を設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック

⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑪

フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	青森大学
-------------	-------	-----	------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることとし、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
青森県青森市に本社を置く企業や青森県むつ市に本社を置く企業、東京都江戸川区を中心に活動している企業、および本学のキャンパスを設置している自治体などと連携した科目を整備すべく、交渉や調整を行い、特定成長分野の人材育成を踏まえたPBLなども活用した科目の整備、実施を行っている計画である。	青森県青森市に本社を置く企業や青森県むつ市に本社を置く企業、東京都江戸川区を中心に活動している企業、および本学のキャンパスを設置している自治体などと連携した科目を整備すべく、キャンパスを置く地域の各種団体等と今後の連携等に関する交渉・調整を行った。自治体側では、令和5年度に青森市役所における青森市長等へ連携に関する交渉、むつ市役所におけるむつ市長および企業調整課等へ連携に関する交渉、東京都江戸川区における経営企業部企画課等へ連携に関する交渉や調整等を行った。企業側では、青森市では青森商工会議所における会館・部会等へ連携に関する交渉、㈱フォルテ、㈱テクル等の企業と連携に関する交渉・調整を行った。むつ市では、むつ商工会議所における会館と連携に関する交渉、㈱東京堂、㈱むつ車体工業等の企業と連携に関する交渉・調整を行った。東京都では、㈱ケーター販売、㈱イレトク、㈱ビズアップ、㈱ハースコーポレーション、（株）国立青少年教育振興機構、（一社）日本経営協会などの企業・団体等と特定成長分野の人材育成を踏まえたPBLなども活用した科目の整備、実施を行うためにと交渉や調整などを行いこれらの内容について議論を重ねた。また、学内に青森大学地域課題解決型情報インタフェース強化タスクフォースを設置し、本文文系2学部、理系2学部の科目構成の確認、今後の横展開などの文理融合教育の推進等、会議での議論、teamsを活用した意見・情報集約、カジュアルなミーティングなどでのブレインストーミング等を行い、学内でも今後の科目展開について議論を重ねた。	次年度以降は、青森県内（青森キャンパス、むつキャンパスを本社所在地に置く）の複数の企業・団体等とさらなる協力・連携体制を仰ぎ、PBL等を活用した科目展開について引き続き検討し、社会のニーズと学生のニーズがよりマッチするように検討を重ねてより深化した展開を構築していきたいと考えております。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☒ チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学として多様な入学者の確保に向けた取り組みとして、4点挙げて説明したい。1つめとして、入学者選抜における科目の見直しを行い、従来より地域活動への意欲を伺っているが、今後は一般選抜で「情報」を選択できるような検討、思考力を問う項目を追加することなどを検討し、入学者選抜に關して社会のニーズ等を踏まえ形で見直しを行っていく。2つめとして、地域の初等中等教育段階の学校と連携した出張授業や教育関連イベント等を通じ、連携事業等に取り組む中で本学の特定成長分野の人材育成における魅力等を発信し、今後の学生募集につなげていく。3つめとして、本学は社会人の受入れ体制は整備されているが、入学者はまだまだ少ないため、社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育の推進、リスキリングのために3キャンパスに関連する自治体や企業などに働きかけを行い、入学者の確保について推進していく。4つめとして、留学生についても増えているが、さらに受入れ強化を図るため、在学留学生の声などを参考に、出口の保証など留学生に多様な社会選択をさらに提供すべく、本学の魅力を国内外に向けて発信し、多様な入学生の確保をしていきたい。	本学として多様な入学者の確保に向けた4点の取り組み状況として、1つめの「入学者選抜における一般選抜での「情報」を選択できるような思考力を問う項目を追加することなどの検討」については、大学内の入試関連組織を改組し、入学者選抜選考部会、学生募集戦略部会、障害者防止対策部会などの3つの部会での議論を踏まえ、思考力を問う科目の追加等を踏まえた見直しについて検討を行った。2つめの「地域の初等中等教育段階の学校と連携した教育関連イベント等を通じ、本学の特定成長分野の人材育成における魅力等を発信し、今後の学生募集につなげていく。」ことについては、令和5年度は青森県内の県立高等学校3校（木造高等学校、六ヶ所高等学校、三戸高等学校）と新たに高大連携協定を締結し、出張講義や教育関連イベントの相互展開、特定成長分野の人材育成における魅力等を発信すべく、連携高校の全てに本学の担当として教職員を配置し、連携高校の教職員と今後の発展性について協議等を行った。これらの取り組みが今後の学生募集につながっていくものと考えている。3つめの「社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育の推進、リスキリングのために3キャンパスに関連する自治体や企業などに働きかけを行い、入学者の確保について推進していく。」ことについては、キャンパスを置く青森市、むつ市、江戸川区などの自治体等と協議を重ねているところである。4つめの「在学留学生の声などを参考に、出口の保証など留学生に多様な社会選択をさらに提供すべく、本学の魅力を国内外に向けて発信し、多様な入学生の確保をしていきたい。」ことに関しては、学長自ら留学生などヒアリングを行ったり、学内の満足度調査等から学生の声を集め、できることからではあるが、学生の声を踏まえた対応を行っている。本学の魅力の発信については、学生たちの活動を積極的に取り上げ、SNS等を活用し、国内外に発信頻度を増やしているところである。出口の保証についてもキャリア支援に関する学全学的な教職協働体制でチームを編成し、正課内でのキャリア関連科目の充実、正課外での各種キャリア支援、資格取得支援等、多様な選択肢を提供できるよう学生の声に寄り添いながら就職先企業の開拓等も合わせて進めているところである。	各種取り組みを実施しているが、即効性は見えないため、複数年かけて効果の検証をしつつ、甲年度の取組について振り返りなどを行い、不断の見直しを行いながら、社会のニーズにマッチしつつ、本学学生の声や入学予定者の声などに寄り添った取組みを行いながら、より積極的な教職協働体制で進めていきたい。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	青森大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	青森大学
-------------	-------	-----	------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることとし、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機関が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
青森県青森市に本社を置く企業や青森県むつ市に本社を置く企業、東京都江戸川区を中心に活動している企業、および本市のキャンパスを設置している自治体など連携した科目を整備すべく、交渉や調整を行う計画であり、特定成長分野の人材育成を踏まえPBLなども活用した科目の整備、実施を行っている計画である。	青森県青森市に本社を置く企業や青森県むつ市に本社を置く企業、東京都江戸川区を中心に活動している企業、および本市のキャンパスを設置している自治体など連携した科目を整備すべく、キャンパスを置く地域の各種団体等と今後の連携等に際する交渉・調整を令和6年度も令和5年度同様実施した。 自治体関連では、青森市役所、青森県警察サイバー対策課と連携に関する交渉、むつ市役所と連携に関する交渉、東京都江戸川区と連携に関する交渉や調整等を引き続き行った。企業関連では、青森市では青森商工会議所、青森朝日放送、大坂組組、朝サンデー、朝テクニカル、朝ワオルテ等の企業と連携に関する交渉・調整を行った。むつ市では、むつ商工会議所、東通村商工会、朝吉田産業、朝東京堂、朝むつ車体工業等の企業と連携に関する交渉・調整を行った。東京都では、（独）国立青少年教育振興機構、（公財）日本体操協会、（一社）日本経営協会、NTT東日本、さくらインターネット、朝ケータ―販売などの企業・団体等と特定成長分野の人材育成を踏まえたPBLなども活用した科目の整備、実施を行うためと交渉や調整などを行いこれらの内容等について議論を重ねた。 また、市内では、3キャンパス・カレッジ編成準備委員会設置（令和5年度設置した青森大学地域課題解決情報・IT・タフネス強化タスクフォースを改組）し、本学文系と学部、理系と学部の科目構成の確立、今後の展開などの文理融合教育の推進等、会談体や部会等での議論を行い、学内で今後の科目展開について議論を重ねた。 これらの内容を踏まえ文理融合教育を推進するために、ソフトウェア情報学部の科目に「ソフトウェア情報学特講」という科目を令和6年度より開講し、文系学部の学生を含む、他学部の学生も履修できる科目とし、上記の協力自治体・団体・企業の皆様から講義や研究支援等のご協力をいただき、企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施を行った。	次年度以降は、「ソフトウェア情報学特講」等の科目受講学生などからの声などを踏まえ、PBL等を活用した科目展開について不断の見直しを行い進めたいと考えております。これらに合わせ、引き続き協力いただいている企業・団体等へさらなる協力を呼び、より充実・深化した取り組みを展開していきたいと考えております。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☒ チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学として多様な入学者の確保に向けた取り組みとして、4点挙げて説明したい。1つめとして、入学者選抜における科目の見直しを行い、従来より地域活動への意欲を問うているが、今後は一般選抜で「情報」を選択できるような検討、思考力を問う項目を追加することなどを検討し、入学者選抜に関して社会のニーズ等を踏まえた形で見直しなどを行っている。2つめとして、地域の初等中等教育段階の学校と連携した出張授業や教育関連イベント等を通じ、連携事業等に取り組む中で本学の特定成長分野の人材育成における魅力等を発信し、今後の学生募集につなげていく。3つめとして、本学は社会人学生の受入れ体制は整備されているが、入学者はまだまだ少ないため、社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育の推進、リスキリングのために3キャンパスに関連する自治体や企業などに働きかけを行い、入学者の確保について推進していく。4つめとして、留学生についても取組できているが、さらに受入れ強化を図るため、在学留学生の声などを参考に、出口の保証など留学生に多様な社会選択をさらに提供すべく、本学の魅力を国内外に向けて発信し、多様な入学生の確保をしていきたい。上記については、キャンパスを置く青森市、むつ市、江戸川区などの自治体等とお互いの課題等を共有しながら協議を重ねているところである。	本学として多様な入学者の確保に向けた4点の取組み状況として、1つめの「入学者選抜における一般選抜での「情報」を選択できるような思考力を問う項目を追加することなどの検討」については、入学者選抜・継続支援管理委員会及び関連部会にて議論を重ね、思考力を問う科目の追加等を踏まえた見直しについて検討を行い、令和6年度実施の一般入試より各学部で情報科目を受験生が選択できるよう見直しを行い運用している。 2つめの「地域の初等中等教育段階の学校と連携した教育関連イベント等を通じ、本学の特定成長分野の人材育成における魅力等を発信し、今後の学生募集につなげていく。」ことについては、青森県内の高大連携協定を締結している高等学校を中心として、本学の連携担当の教職員を調整役として、高大連携授業、出張講義や教育関連イベントの相互展開を行い、高次の交流を深めながら、特定成長分野の人材育成における魅力等を発信しており、学生募集にも少しずつ繋がってきている状況である。 3つめの「社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育の推進、リスキリングのために3キャンパスに関連する自治体や企業などに働きかけを行い、入学者の確保について推進していく。」ことについては、キャンパスを置く青森市、むつ市、江戸川区などの自治体等とお互いの課題等を共有しながら協議を重ねているところである。 4つめの「在学留学生の声などを参考に、出口の保証など留学生に多様な社会選択をさらに提供すべく、本学の魅力を国内外に向けて発信し、多様な入学生の確保をしていきたい。」ことに関しては、令和5年度の留学生とヒアリングなどの状況を踏まえ、東京キャンパスに留学生が多いことから令和6年度「東京キャンパス強化タスクフォース」を設置し、学生の声を踏まえた対応について検討を行い、出口の保証も含む学生支援体制の強化を行っている。また、本学の魅力の発信については、学生たちの活動を積極的に取り上げ、青森大学より（学生が作成する学生新聞）やSNS等を活用し、国内外に発信頻度を増やしている。出口の保証については、入学者選抜・継続支援管理委員会の中核的な部分として位置づける形でキャリア支援部会を再編成し、全学的な教職協働体制で各キャンパスの状況等に合わせて正課内外での各種キャリア支援等を充実を行い、多様な支援や選択肢を提供できるよう学生の声に寄り添いながら就職支援を進めており、多様な入学者の確保に向けた取組を行っている。	多様な入学者の確保に向けた各種取組みについて、逐次振り返りなどを行い、不断の見直しをしながら、社会のニーズを捉えつつ、本学学生の声や入学予定者の声などに寄り添った取組みを行いながら、引き続き教職協働体制で取り組みの推進、学生支援の強化等を行ってみたいと考えております。

大学名	青森大学
-----	------

1.本事業対象となる学部等の状況

[illegible]

大学名	青森大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	青森大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	320	320	320																
		入学者数	人	315	297	299																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	320	320	320																
		入学者数(B)	人	315	297	299																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.98	0.93	0.93																
	収容定員等	収容定員(C)	人	1380	1380	1400																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	1187	1204	1224																
		編入学者数	人	3	5	6																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.86	0.87	0.87																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		25,463	148,163	81,710	80,241	12,055	71,135	79,583												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	62,471
本事業による助成金の額(F)	千円	217,833
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	67,917

特記事項

本学の編入学定員は、若干名となっており、編入学試験で合格し、入学した場合には対応する年次に編入学しているため、各項目の対応する編入学者数の欄には編入学者数を入れている。